

グループホーム 折尾東

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		「利用者一人ひとりが地域の中で「自分らしく」生活するために「思いやりと気づきの精神」で支えます」と、その人らしい生活を、ホーム内だけで送ってもらうのではなく、地域の活動等に参加する事により地域の中で、その人らしく暮らし続けることを支えていく支援を行うことを方針の一部としている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		運営理念は目のつくところに掲示しており、毎朝のミーティングや定例会時に運営理念を唱和し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		地域の方々には開設時に説明済みであり、見学希望の方や社会福祉協議会の方々の見学等も受け入れている。ホーム内だけでなく、祭りや市民センターの催し等地域の活動に参加する等、地域の中で生活をしていることを理解してもらえるよう取り組んでいる。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		近隣の方が入居者や職員に興味の話などをしに、ホームに立ち寄られる。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		町内会に加入しており、地域の行事には積極的に参加している。また運営推進会議には地域の方も参加して下さっている。町内の組長の役割を担った実績もある。近くに保育園・小学校・保健福祉センターもあり、散歩の途中に立ち寄ったり、また、地域の人々が立ち寄り、話をしていられるなど地域との連携や交流が盛んに行われている。

グループホーム 折尾東

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	高齢者を抱える近隣の方からの相談に乗っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	要改善点については考察し、改善に取り組んでいる。職員は評価の意義を理解しており、評価結果をサービスの改善に活かしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会では取り組みの状況や活動状況の報告を行い、意見・要望を聞き、サービスの質の向上に活かしている。家族会の報告や意見・要望等も反映させながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。また会議で得た情報を検討し、日々の業務に活かせるよう努力している。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	北九州市の担当課とは常に連絡を取り、情報を得ている。また、市の事業である「家庭介護教室」を年2回受託するなど、積極的に行政との連携を高める努力をしている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業に関するセミナーに参加し、職員間で学習し必要な場合には活用できるようにしている。また同事業所内のグループホームで利用されている方がいるので情報交換を行い、必要な人に支援できる体制を整えている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部のセミナーに参加したり、定例会で学習し、虐待防止に努めている。		

グループホーム 折尾東

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居が決定した際は、入居契約書や重要事項説明書をもとに、当ホームでのサービスについて十分説明している。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>普段から入居者に要望や苦情を伝えてもらうようにしており、玄関には意見箱を設置している。また月2回社会福祉協議会より介護相談員にきてもらっている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に1回家族の方へ、その月の生活状況、健康状態、金銭管理などを手紙で報告している。その際遠方の方などは写真を送付している。また即報告が必要な場合はその都度報告している。面会時や運営推進会議などで職員の異動なども報告している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に「意見箱」を設置している。折に触れ面会時や運営推進委員会などにおいて、気軽に意見や苦情などいって頂けるように家族へ働きかけている。また苦情申し立ての窓口についても知らせている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎日のミーティング、定例会、個人面談などで、意見を述べてもらうなど意見交換を行っている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者1人ひとりの状態により、全体としてどのような業務内容にすべきかを常に検討し、シフト勤務の時間の変更や調整を、職員と話し合い、同意を得て行っている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ケアの基本方針をしっかりと立てている為、ケアの内容に大きな変化がないようにしており、新入社員が入居者と馴染みの関係ができるまで、既存の職員がフォローしている。</p>		

グループホーム 折尾東

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>職員の採用に当たっては年齢・性別などで排除することはない。管理者は職員が生き生きと働けるよう、精神的なフォローを心がけている。また各職員に能力を活かして業務を遂行できるよう配慮している。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>入居者の人権に配慮したケアを行うよう指導・教育している。管理者・職員は人権に関する研修に参加している。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>定期的に内部・外部の研修に積極的に参加している。職員の段階に応じての研修も積極的に受講出来る様に支援している。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同事業所内のグループホームや地域の同業者との交流・勉強会などを行っている。相互訪問をし情報交換も行っている。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員の要望に応じたシフトを組んだり、管理者との個人面談を実施したりと相談しやすい環境を作っている。また職員相互の親睦会や定例会を実施している。</p>		

グループホーム 折尾東

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各職員の得意分野を活かせるような役割を分担し、全体のバランスを考えながら、それぞれが目標や計画を立てて、業務を遂行している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	常に会話を行い、本人の希望などを聴き、出来る限り希望に沿った生活を送ってもらえるようにしている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居以前の家族との関わり方や、家族からの要望を詳しく聴いて、本人にとって最適と思われるケアを行うよう心がけている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居直前の詳しい情報を家族や関係機関から入手し、入居直後の本人の状況と照合し、どんなサービスが必要なのかを検討する。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬよう徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、併設のテイクサービスを利用して頂くなど、管理者・職員と馴染みの関係を作りながら、サービスを開始するなど、徐々になじめるよう工夫しており、納得して入居していただけるように支援している。また新しい環境に馴染めるよう、以前から使用していた食器、寝具、家具等を持ち込んでもらったり、必要な時には家族との電話、面会で安心してもらう工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と会話の機会を多く持ち、本音と本音が感性で響き合える信頼関係を大切にし、職員と入居者は、お互い学んだり、支えあう関係を日々の暮らしの中で築いている。またその方の生活歴などを語ってもらうことで共感している。		

グループホーム 折尾東

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族とこれまでの関わりあい方や要望、入居者との歴史、入居者に対する感情を伝えてもらうことにより、家族の気持ちを共感している。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の精神状態の変化やそれに対する対応など、参考になる情報を家族に伝えるなどして、これまでどりの良い関係が継続するよう支援している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の来園を歓迎しており、馴染みの場所への訪問を時折行っている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	自然な形で入居者同士が談話されたり、助け合うよう、また仲の良い入居者同士の外食、買い物、ドライブ、入居者全員によるレクリエーションなど、入居者同士の助け合いや気持ちの支えあい、一人ひとりが孤立する事なく過ごして頂けるよう努めている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去した入居者の近況を尋ねたりしている。		
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話を多くもち、入居者・家族の思いや希望を聴きアセスメントを行い、本人本位の生活様式を尊重している。		

グループホーム 折尾東

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から本人の生活歴、生活環境について等の情報を提供して頂く。また以前に使用していた介護サービスの関係機関等からも、情報の提供をお願いしている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	常に入居者の様子観察を行い、心身状態や能力に応じたケアを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の要望を第一に考え、必要な関係者とケアカンファレンスを行い、入居者主体の暮らしを反映した介護計画を作成している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しを行っている。また入退院等で本人の状態に変化が生じた場合、プランの変更を行っている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の入居者の様子やケア内容を記録し、次回の介護計画にいかしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	他事業所との連携を図り、必要な情報提供に努めている。また併設のデイサービスとの連携を図り、音楽鑑賞・バーベキューなど行事の際には、交流やふれあいを楽しんでいたできるように柔軟な支援を行っている。		

グループホーム 折尾東

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	時折民生委員や、ボランティアの訪問がある周辺地域からの諸施設からの協力を得ることができる様、定期的に連絡している。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて他のサービス事業所を紹介するなどの支援を行っている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターより権利擁護やケアマネジメントについての知識、情報を提供してもらっている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の同意を得て、グループホームのかかりつけ医に1ヶ月に1回往診をしてもらっている。歯科は1週間に1回ホームで訪問診療が行われている。また、健康状態に問題が生じた場合には受信するなど、適切な処置を受けている。また往診、受診結果を随時家族に報告している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医、及びかかりつけ医が北九州市指定の''もの忘れ外来''である。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師を配置、日常の健康管理や入居者の健康相談を行っている。		

グループホーム 折尾東

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	入院時には頻繁に見舞いに行っている。また、病院のソーシャルワーカーと連絡を取り、病院での状態、治療方針や退院までの計画等を話し合うカンファレンスに参加した。		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	ターミナルの経験はないが、重度化や終末期のケア方針として「終末期の指針」を作成している。かかりつけ医や家族とも話し合っ方針を共有し、同意を得ている。		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	急性期の処置については、かかりつけ医の判断に任せ、家族の要望をうかがい当ホームでできる事は本人の状態を検討しながら支援を行っている。		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	他の施設等に転居される場合は、当ホームでの生活状況や健康状態について詳しく申し送りしている。		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	入居者の誇りやプライバシーを損ねないよう対応を徹底している。入居者が電話をする時は居室で子機使い、プライバシーには十分注意を払っている。記録類は鍵のかかる収納庫に保管し、個人情報の取り扱いは他に漏らすことがない様、業務の中で、全職員が注意をしてる。		

グループホーム 折尾東

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定、自己選択が行えるような支援を行っている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には1日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。常に入居者の希望を優先し、その時の本人の気持ちを尊重しながら支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ボランティア(有料)や地域の理美容院の利用など入居者の希望に合わせた支援をしている。(顔そり・カット・パーマ・毛染め)		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを聞くなど、献立に活かす取り組みを行っている。職員と入居者はテーブルを囲んで、楽しく食事ができる雰囲気を作っている。入居者で食事の盛り付けやかたづけができる人には手伝ってもらっている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物や、おやつは一人ひとりの希望や嗜好に合わせて提供している。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のパターンを把握し、適切にトイレ誘導を行うなどのケアを行っている。		

グループホーム 折尾東

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望を聞き、入浴日や時間を設定し楽しめるよう支援している。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握し、入居者の希望や状況に応じて、心身を休めるように昼寝をして頂いたり、日中の散歩や気分転換を図る等し一日の生活のリズムを支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの能力に合わせて、食器の片付け・掃除・洗濯たたみなど役割をできる範囲で担っていただいている。また、趣味である手芸や好みのレクリエーション、摘んできた花を花瓶に挿すなど、入居者の生活歴や力を活かせる場面を作っている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者一人一人の希望に応じて自己管理しているが、判断能力が厳しい入居者は、家族が管理している。また全員ではないが、外出時や買い物等で欲しいものは自分で買えるよう支援している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日、散歩、外気浴やドライブは出かけている。季節や地域の行事など状況に応じて、柔軟に外出できるように支援している。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	美術展や写真展、作品展などに出かけたり、地域の行事にも参加、また日帰り旅行などにも参加できるように支援している。		

グループホーム 折尾東

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望に応じて手紙の代筆や、電話が日常的に利用できる様支援している。(プライバシーに配慮し居室で使用するなど)		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、友人達の訪問を常に歓迎しており、気楽に立ち寄ってもらえる雰囲気を作っている。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行っており、全職員が身体拘束の行為の内容を把握している。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関、居室とも鍵を掛けていない。鍵をかけることの弊害は職員は理解している。入居者が出かける気配がある場合は、本人に気づかれぬように後ろから着いていき、傍で見守るようにしている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に本人の所在を確認し、居室で一人で過ごされてる際も、時折声掛けを行うなど、安否を確認している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの性格、心身状態に応じて保管、管理しているものは異なっている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態は全職員が把握しており、緊急時の対応についてはマニュアルがあり全職員が熟知している。		

グループホーム 折尾東

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に応急手当や緊急時の対応について訓練を行っており、研修にも参加している。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回入居者も参加し防災訓練をおこなっている。夜間を想定しての訓練も行っており、日頃より近隣の方に災害時の協力をお願いしている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりの健康状態や精神状態を報告し、起こり得るリスクについて説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	異変を発見した場合、速やかに管理者に報告し、受診が必要な場合は受診を行う。それ以外の場合でもその処置をミーティングやシートで全職員に伝え、情報を共有し早期発見、対応を行っている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が入居者が使用する薬名や用法、用量、副作用など把握できるようにしている。また処方に変更がある場合は、開始してからの様子観察を行い症状に応じて主治医に報告する。。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防のため、水分補給に留意しており、適度な運動を行ってもらっている。また、食事の摂取量にも留意している。		

グループホーム 折尾東

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを徹底して行っており、定期的に義歯洗浄剤を使用している。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士がたて、栄養バランスが取れた食事内容となっている。その日の状態に応じた食事量や内容、水分量を摂取してもらっている。また食事形態も一人ひとりに合わせる等考慮している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルがあり、全職員が予防や対応の仕方を熟知している。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理の取り決めがあり、それを実行している。定期的な消毒を実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の周りを取り囲むように花壇やテーブルがあり、季節の花を植えている。また玄関のドアは常に開放され気軽に訪れやすいように雰囲気作りを行っている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所は対面式で料理の匂いや食器の音が五感を刺激し家庭的な雰囲気をた漂わせ、リビング・廊下・玄関には、椅子やソファが置かれ、季節の花が飾られ、居心地よく過ごせる空間となっている。		

グループホーム 折尾東

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	敷地内にガーデンベンチ、小部屋にベンチ、リビングにソファ、マッサージ機等が置かれ、入居の方々が思い思いに過ごせるような空間を提供している。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のスペースは広く、今まで使っていたベット・机・箆笥・椅子・テーブル・装飾品等が持ち込まれ、安心して暮らせる空間となっている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日中適切に換気を行い、温度計で室内の気温を確認しながら空調を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な生活が送れる様物理的環境を整えている(手すりの設置、段差のない床、照明の場所や明るさ、高さの低い使いがっのの良い流し台、物干し台の高さの調節等)		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	誤認や錯覚を起こさないように言葉かけをし、対応している。また各居室にはカレンダーや時計があり、季節や時間等の見当識に配慮している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先のベンチで日向ぼっこ、洗濯物干し、花の水撒き、草むしり等活动しやすいよう配慮している。		

グループホーム 折尾東

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム 折尾東

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者一人ひとりの個別性に配慮し、入居者の立場に立ったサービスを行っています。個人の出来ることは能力に応じて無理のない範囲で行って頂き、自立及び自律支援に努めています。また毎日を楽しみながら過ごすように、室内でのレクリエーション（市民センターへの作品製作、折り紙、塗り絵、貼り絵等）での充実、英国式リフレクソロジーやフットバース、マッサージチェアでリフレッシュして頂き和んで頂いています。また外出レクリエーション（地域行事、ドライブ、観賞会等への参加）や毎日の散歩等を通して季節の移り変わり、四季折々の情景を五感で感じて頂くよう努めてます。